

# 目 次

創立30周年を迎えてのご挨拶	1
朝日ヶ丘町内会会長 小関 益美	
創立30周年記念行事のあらまし	4
特別委員会実行委員長 加藤 敏	
朝日ヶ丘町内会30周年記念式典及び祝賀会	6
朝日ヶ丘町内会館にて 1998年10月24日	
写真でみる朝日ヶ丘町内会	10
座談会	13
内田 和 井鳥 拓男 小野 春雄 小堀 新平 五十嵐貞夫 小関 益美 佐藤 和雄 粟倉 輝彦	
新北野物語	25
初代朝日ヶ丘町内会会長 菅原 安信	
北野30年に想う	32
初代朝日ヶ丘町内会会長 菅原 安信	
朝日ヶ丘町内会30周年に想う	34
斎藤 勝雄	
朝日ヶ丘町内会の変遷	37
朝日ヶ丘町内会・役員等の記録	43
朝日ヶ丘町内会・歴代会長等名簿	51
朝日ヶ丘町内会会員名簿	53
朝日ヶ丘町内会案内図	

# 座談会

朝日ヶ丘町内会30周年記念誌座談会  
(歴代町内会長による)  
平成10年6月13日18時~

出席者 (歴代町内会長および副会長就任順)

昭和48年度会長	内田 和 (第1班)
昭和51年度会長	井鳥 拓男 (第4班)
昭和52年、58年度会長	小野 春雄 (第5班)
昭和53年、54年度会長	小堀 新平 (第6班)
昭和60年度会長	五十嵐貞夫 (第4班)
昭和62年~平成10年度会長	小関 益美 (第8班)
平成5年~10年度副会長	佐藤 和雄 (第1班)
司会・記録係	栗倉 輝彦 (第7班)

司会： 今年は朝日ヶ丘町内会が発足して30周年に当たりますので、歴代の町内会長さんにお集まりいただき、ご苦労話しゃ楽しかったことをお話しitただければ幸いです。最初、歴代の会長さんに順番にお話をいただき、その後は自由にお話しいただきたいと思います。なお、座談会を司会するにあたり、佐藤和雄副会長さんが取りまとめられました資料を参考にさせていただきました。朝日ヶ丘町内会は昭和43年に初代の会長菅原安信さん(現在カナダ在住)で13戸程度で発足されたそうですが、現在は249戸になっています。本日ご出席いただきました方で、最も初期の昭和48年度会長さんであった内田さんのころは、発足直後でなにかとご苦労が多かったと思いますが、ご苦労話などを最初にお話しいただけないでしょうか。

まとめ大変、やきもきさせた水道切りかえ

内田： もう大分年数も経過していますので、記憶の定かでないところもありますが、私は昭和47年の秋に町内会のお世話になりますて、翌年に当初は会長ではなく、副会長ということでお受けしたのですが、尾上会長さんのご都合で、会長代行ということで始めたのがきっかけだったと記憶しています。当時、若かったこともあり、仕事も忙しく、町内の事情もよく分からず、どうしてや

## 座談会

っていいたら良いのか自信がありませんでした。子供も小さかったものですから、家内と相談したり、町内会の先輩諸氏にご指導いただきながら進めたように記憶しています。当時の町内は簡易水道で丁度市の水道に変わる話が出た時期でしたので、町内の簡易水道の管理を副会長が担当していたと記憶しております。簡易水道から市の水道に切り換えるに当たって色々な意見が出て、まとめるのが大変で、町内会の人たちもやきもきしてたのではないかと思います。当時の町内会の戸数もほんの僅かで、20戸程度であったと思いますが、役員としては会計と班長が2名程度で、必要な時は一軒一軒回ってお願ひして歩いたと記憶しています。

記憶が定かではありませんので、佐藤さんにまとめていただいた資料をもとに思い出した次第です。

司会： どうも有り難うございました。では昭和51年度の会長さんであった井鳥さんの頃は町内会に市の水道が入り、北野小学校の開設など変化の多い時期だったと思いますが、如何でしょうか。

### 除雪費一戸5,000円、役員会は学校で

井鳥： 20年も経過しますので、記憶がはっきりしないのですが、会長をした時の記録がないかと、家で探してみたのですが、このような昭和51年度の役員

の名簿と除雪費計算のメモが出てきました。当時の除雪費が年間約70万円で、1軒当たり5,000円でしたので当時としては相当の負担であったと思います。当時、町内会には文化ハウスと富樫荘というアパートがあり、学生が合計で14名おり、学生は半額の2,500円として計算すると当時の戸数は127戸となります。私は昭和49年の12月10日前後に当町内会にお世話になりましたが、丁度12月には先ほど水道の話がありましたが、簡易水道から市の水道に変わった時で、私の場合は最初から市の水道を使用することができました。当時、まだ、簡易水道の塔が五十嵐さん宅の近くにあったのを記憶しています。当時、交通機関としては東北通りにもバスが走っていましたが、降りてから歩く距離も遠く、やはり36号線の月寒ターミナルに歩くのが勤務先に通う重要な交通機関でした。

冬に向けての移転でしたので、雪の多い時に今の吉田川公園の中を歩いて通うのが大変でした。昭和51年の春の総会で欠席裁判で会長に推薦されましたが、まだ町内会の事情も良く分からぬからと言うことでご辞退したのですが、前会長の尾上さんに「総会で決まつたら受けることになっている」と言われ、引き受けることになりました。当時は会館もなく、総会や役員会は開校まもない北野小学校で行われました。多くの方のご協力をいただきながら、

町内会の事業を進めてまいりました。

### 大変だった雪解け時の歩行 痴漢対策でパトロール

井鳥： 春先すぐに、吉田川公園のメインストリートを雪解けの時期に通うのは大変だったので、早速、土木事務所の方に出向きました。町内会にとって重要な生活道路であるので改善をお願いしました。このことは歴代の町内会の執行部が申し入れをしてきたことであったようですが、雪解けでぬかって歩けない状態でしたので、砂利を入れて改修することを申し入れましたが、あの通りが市道になっていないことから、土木事務所では事情は解るので車は提供するが、砂利は買わされたのではないかと思います。これが会長就任、最初の仕事でした。

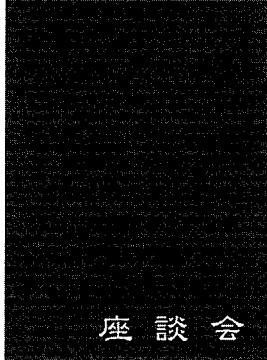
小関： その当時から砂利を入れていたのですか。私の記憶では小堀会長の時に交

通安全を担当していたので、毎年、春になると役員が出て砂利を入れて、整備したものです。車もあの通りしか通れなかったので、よく埋まって動けなくなることがありました。一部はヨシ原で痴漢が出たとか、春先には女性は長靴を履いていて、途中から革靴に履き替えるようなことをしていました。町内会から通うにはあの道しかなかったようです。

井鳥： 昭和51年に1本だけですが簡易舗装が出来上がりまして、この時に他の道路もお願いしたのですが、市道になっていないことから無理と言われました。佐藤さんがまとめられた資料によると、夜間パトロールと書いてありますが、夏になると吉田川公園のところの通りに痴漢が出たことがあります。夏の間、夜8時から9時まで2~3ヶ月間、各班もちまわりでパトロールしたことがありました。



昭和56年8月13日の町内  
盆踊り大会（仮会館前）  
役員総出で組んだ槽を囲み  
子供も大人も交流の輪を広  
げた



## 座談会

司会： 私も昭和50年に町内会にお世話になりましたので、井鳥さんのお話が良く分かります。まだ、色々とお話があるかと思いますが、後ほどフリートーキングの時にお願いいたします。昭和52年と58年に会長さんをやられた小野さんにお願いいたします。なお、井鳥さんから昭和51年当時のお話をいただきましたので、昭和58年当時のお話ををお願いいたします。昭和58年と言いますと、町内会館の建設用地の購入とか町内会が現在のように8班体制になつたなど、大きく発展した時期であったと思いますが。

### 電源公社から再々の会館撤去申し入れ 少年野球、地区大会で準優勝

小野： 昭和47年に最初は家内だけが町内会にお世話になり、その後私も移転し、最初は昭和52年に井鳥さんの後を継いで会長を引き受けました。昭和52年は町内会が発足して丁度10年目という年でした。昭和58年の時も同様で、行事の内容は原始的なことで、井鳥さんのお話にもあったように公園の道路に砂利を入れたり、街路灯の増設や切れた電球の取り替えなどが主体でした。昭和50年頃は町内会の戸数は120戸程度であったと思います。町内会の予算も年間75万程度で、その中でやりくりしながら、町内意識を高めようと、ささやかな試みも行いました。当時、一番

悩まされたのは、町内会の仮会館が高圧線の下にあり、電源開発公社から「これは物置なのだからそれに違反しないように使用することと、できれば早く撤去してもらいたい」と毎年3人くらいが来ていました。いつも「はい、解りました」と対応していたことを記憶しております。思い出しますと、楽しいこともあります。少年野球や女子ソフトボール大会への出場など。野球では大人顔負けのスピードをもつ投手がいて、北野地区大会で初戦ながら準優勝もしました。女子ソフトボールも一生懸命でした。その頃の子供さんはもう大学生か社会人になっており、隔世の思いです。大人のソフトボール大会も今のゴルフ練習場の空地で行いました。また、盆踊りは、役員など総出で手作りの櫓を組んで行いました。ともかく、先輩諸氏から引継いだ年中行事も軌道に乗り、ささやかながらも続けられ、町内の諸施設も充実してきて、町内意識も高まってきたという思いがありました。

司会： どうも有り難うございました。小堀さんが町内会長をされた昭和53年、54年は町内会仮会館の設置などがあった時期ですが、色々と大変なことがあったのではないかでしょうか。

## 老人クラブ作りたいけど・・・ 大内さんからプレハブ

小堀： 仮会館については亡くなった尾上さんが一生懸命にやっておられました。私が町内会に移転したのは昭和48年でしたが、例の吉田川公園の高台に5、6人が集まり、さかんに指さして見ています。何をしているのですかと聴きますと、ここは昔、第25連隊の練習場で、ここに機関銃をおいて射撃をしたことがあり、あの田圃のところを機関銃をかついで、大変苦労したと話していました。第25連隊の戦友会の集まりがあり、懐かしくて訪ねてみたといっていました。今道議員ですけれども、当時は市會議員であった大内さんが良くやってくれまして、市役所の折衝も私どもが行ってうまくいかず、大内さんが行くと一発でうまく行くことが多かったようです。トラックで1台の砂利が5台になるという具合でした。その内に亡くなった池田さんと井原さんのお祖父さんとかが「会長さん、僕等老人クラブを作りたいのだけれど、作っても集まるところもないし」という話がきっかけで、やはり会館が必要であるということになり、悩んでいたところ、たまたま大内市議さんから月寒にあるプレハブを無料でくれるから持つていって良いといわれましたが、当時、運ぶトラックの当てもなく、結局、大内さんからトラックを出してい

ただき運ぶことができましたが、内部の改造にお金がかかりますから、困っていましたら、当時、会計をしていただいている現在の会長の小関さんが「よし、この内部は私が塗装する」と言われ、税理士の小関さんが自ら進んで塗装するということで盛り上がり、みんなで協力して仮会館が出来上りました。出来上がったのは良いのですけれども、この仮会館がおじいさんとおばあさんの溜まり場になった訳です。先程、話題になりましたが、物置と言うことになっているのに、暖房の煙が出ていると電源開発公社から責められ、私どもではどうにもなりませんので、また、大内市議さんにお願いして、高木道議に動いてもらい、その内に移転するからこの1、2年は待ってくれと言うことで内諾を得ることができました。また、せっかく作った老人クラブを一人前に育てたいということで、初代の会長に井原さんのお祖父さんになってもらったのですが、すぐ亡くなられ、次に池田さんがなっておられたのですが、会の内部で些細なトラブルがあり、池田さんが相談にきて、「あんたが作った老人クラブなのだから、なんとかしてくれ」と言われました。結局、この老人クラブの会長を引き受けることになり、町内会の皆様のご支援を得ながら、どうにか一人前になった次第です。以上です。

## 座談会

司会： 有り難うございました。五十嵐さんが町内会長を務められた昭和60年ころは、町内会館建設委員会が発足し、現在の会館の建設が具体化しはじめ、また、念願の町内会大運動会が実現した時期ですが、いかがでしょうか。

五十嵐： あまり記憶に残ってないのです。佐藤さんがまとめられた資料を届けていただき、こんなこともあったのかと思いました。町内会長は昭和62年度1年だけと言うことで勤めさせていただきました。会館建設の検討を始めたこと、仮会館の撤去作業をすすめたことなど記憶にありますが、佐藤さんの資料の通りです。

司会： 有り難うございました。昭和62年から平成10年度まで、会長代行を含めますと11年間、町内会の30年の歴史の約3分の1の会長を務められました小関さんは仮会館の撤去、新会館の建設着手・完成、高圧電力事故、町内会館用地の町内会の所有としての登記などの多くのことがあり、今回の30周年を迎

えることになりましたが、振りかえつてみてお話を下されば幸いです。

### 忘れられない高圧電力事故 会館建設で98%が賛成

小関： なんとなく10年が過ぎてしまったと言う感じです。今、強烈に思い出されるのは北野小学校での総会で小堀さんが会長を受けられた時のことです。私も何も知らないで総会に出たのですが、小堀さんがどうしても会長を受けることはできないと言われ、また、一人では何もできないから、スタッフを用意してくれたら受けてもよいと力説されておりました。あの年に交通安全を担当させていただき、色々とやってきました。その後、1班から8班まで会長は持ちまわりで責任持ってやって行くということでしたので、1年やれば良いと思い、会長を引き受けました。バトンタッチをしようとしても次の会長さんがいないということで役員を編成しないことが2回か3回あったのでしょうか。しかし、続けなければならぬと



昭和56年8月7日の児童会七夕祭りと花火大会（仮会館前）

## 座談会

言うことでやってきましたと思います。また、高圧電力事故が一生忘れ得ないほどの印象に残っています。あの経験をした後の新しい会館の建設についてはそれほど大変ではなかったと思っています。つまり電力事故は大変なことだったのですね。当日、私は町内会の葬儀があって、それにしており、5時半ごろ帰宅したのですが、家の中がなにかおかしいと感じました。そして大変なことが起こったことを知り、それから1週間、夜も寝ないで対応したことを思い出しております。町内会館の建設については道路の問題があり、この道路の問題は今でも解決していないのですが。1カ月に10回ぐらい澄川まで行って、所有者に対しあの道路を町内として半分使わせてもらうことで、最後に了解をもらって、札幌市の建築指導課に日参し、最後には町内会館を建設するということから始まりました。2月の雪の多いときの厳寒期に建設指導課の係長さんが3人も来てくれて、なんとか建てさせてやるということで建設にかかったのです。幸か不幸か判りませんが、あれは前任者からの引き継ぎがスムースに行っていなかったことから、建築を決定した時に町内会の貯金通帳に260万近いお金が残っていました、これが何かというと、町内会館建設敷地の金を払い終わったのに会費を徴収していたという結果でした。町内会館は合計で2380万円余かかったのですが、こ

の250万と札幌市から600万の補助金をもらい、また当時の市会議員の長岡さんが道会議員の岩本さんの事務所に連れてってくれて、日本競馬会場主会からの補助金を150万出してもらうことになりました。この結果、町内会の最終的な予算処置は1150万となりました。そこまで行ってから、町内会の皆さんにアンケートをいただきました。町内会館を建ててよいか。建設には毎月700円の会費を10年間かかり、それでも1年半近く足りないということでアンケートを回しましたら98%が賛成でした。反対の2%の人たちに会って話しを聞いてきましたが、その結果、反対のための反対ではなく、実行されたら負担金を払いますと言うことでした。賛成が99%を超えたわけでした。これで実行に踏み切ったのですが、あの町内会館が完成し、今日この会館があるが故に町内会の色々な会合ができ、みんなもまとまって、また老人クラブの寿会の方々にも喜んでいただけたのかなと思っています。ただ、一つ言えることは、何をやるにして必ず反対意見と言うものがあるので、電話で脅かされたこともあります。しかし、今日、あの会館はいかがでしょうか。丁度10年経って外装などの改修をいたしましたが、これから10年は心配ないでしょう。これからあの会館を守って、あれを中心拠点にして皆さん仲良くやっていただければと願っています。本当に一生懸

## 座談会

命の中で10年が経ったという感じです。

司会： 有り難うございました。最後になりましたが、今回の30周年記念誌のため多くの資料を纏めていただき、また、平成5年から10年度まで副会長として、会長さんを補佐されておられる佐藤さんに資料の取りまとめなどの苦労話しも含めてお願ひいたします。

### 町内会資料は宝物、貢献でき嬉しい

佐藤： 私は昭和49年の11月に町内会にお世話になり、翌年の50年から町内会の役員を務めさせていただきました。当時の尾上会長に「あなたは市に勤めているのだから役員をやりなさい」といわれ、それ以来役員を抜けたのは5年か6年で、それ以外は何時も役員でした。このようなことから、私は自分が住んでいる地域・町内の歴史や発展に若干関心を持っていることから可能な限り地域・町内会資料などを収集しており、これらを私の宝物として大事に保存してきた結果、今回皆様にお渡ししました資料に至った訳です。この資料保存により、このたびの30周年記念誌を発行するにあたって微力ながら貢献できたことを大変嬉しく思っています。

小関： なかなか記録を残すことは出来ないことで、いざ記念誌を出すということ

になると記録が残っていないくて困っていますが、佐藤和雄さんのお陰で良い記録が出来てよかったです。それから、5班の田中さんが一時「町内会だより」を続けて出してくれましたが、これも集約していただいて佐藤さんの記録とともに、記念誌に載せたいと思います。また、最後の方に名簿を入れて町内会に入居した年月日も載せたいと考えています。

司会： これからは自由にお話ををしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

### 人を知り、顔と名前を

小関： 町内会は、少しでも皆さんのが仲良くやっていくことが大切と考え、色々なことをやりましたが、囲碁クラブ、ダンスクラブ、ゴルフ同好会を作りました。ゴルフ同好会では今年の6月21日に第8回目のコンペを行いますが、20人くらい集まっています。同じ町内において色々な付き合いで、人を知り、顔と名前を覚えることが大切で、朝あいさつでき、握手ができるなどが大切だと思っていますが、行き過ぎでしょうか。

小堀： 他の町内会の人には聞いても、戸数350くらいがまとまり易いそうですね。それ以上多くなると、なかなか大変になるようです。

## 座談会

小関： しかし、私はやってみて、450戸から500戸ぐらいが良いのではないかと思っています。300戸以内ですと人や家庭が見えすぎて、また思うように行かないことが多いものです。多人数になると執行部中心で動いて行くことになりますが、もしかするとそのほうが良いのかなと思うこともあります。

井鳥： うちの町内会も普通からすると、350戸くらいなのでしょうが、マンションが出来たりすると400戸ぐらいにはなるのではないかでしょうか。

小関： これから町内会を寿会（老人クラブ）を含めて、今後どのように進めて行くべきかと言うことに対して、何か意見がありませんか。

### 寿会の目標は楽しい旅行 敬老バス見直しは・・

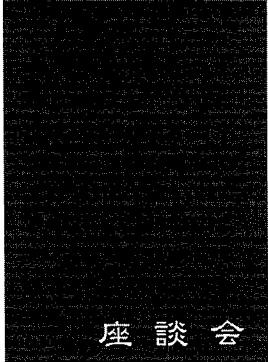
小堀： 今の寿会はとにかく旅行をいかに楽

しくするかというのが目標で、そのためにはどうするかということで、それに資金が必要ですので、吉田川の清掃をやったり、廃品回収をやったりしています。その他、町内会にはお世話になっているのだから、年に一回ぐらいは町内の清掃をしたり、会館の清掃ぐらいはしようということになっています。ところで敬老バスについて市の見直しの動きがありますが、老人にとって敬老バスは大変重要です。今、体の具合が悪くなって街の病院に行くにしても、バスと地下鉄を利用すると往復、1000円以上になります。それを月に何回もと言ふことになると大変です。あの敬老バスがあることによって、ちょっと具合悪くなったら大きな病院に行くことが出来るのです。

小関： 若い人の立場にたって言わしてもらえば、お年寄りが何につけても無料中心志向で、若い者が税金や負担金を払って行くというはどうでしょうか。私も歳ですが、若い人達のことを考え



昭和57年の5月～6月  
タベのジョギング  
毎日夕方になると吉田川公園に  
50人前後の町内会員が集合



## 座談会

るとこんな感覚になるのではと思ひます。いずれ年金だって削られるではないでしょうか。

**小堀：** 今の若い人も、いずれは老人になるのでしょう。

**小関：** やはり、老人も受益部分の一部を負担するという行き方は、しかたない流れなのではないかと思います。

**井鳥：** 私は敬老バスの見直しは大いに結構だと思います。始めから見直しも駄目だ、今までの通りでないと駄目だという考えはおかしいと思います。やはり、時代の流れで見直しは必要だと思います。しかし、全面的に元にもどして、バーにすると言うのは行政上、無責任だと思います。

**佐藤：** 確かに時代は変わったのですから、見直す必要のあることは見直して行くべきだと思います。

**小堀：** 先月の14日に松島で、戦友会があつたのですが、僕等は年配者ですから、最近、当時少年戦車兵だった60才代の連中が会を進めており、それに古参下士官だった連中が「前に決めたことを覆すとはけしからん」と反論しました。ここで、僕等年配者は考えて、時代が変わったのだから、少年兵に任せようと言うことになったのですが、やはり、

我々と60才代の考え方は大きく、違っていることを痛切に感じました。

**司会：** 町内会長さんで故人になられた方はどのくらいおられるのでしょうか。

**小関：** 清水さん、小西さん、小野寺さん、尾上さん、川内さん、野崎さんの6名の方です。私が会長をやってきて一番失敗したと思うのは、故人になられた尾上さんとの関係で、どのように努力しても意とする考えがつたわらなかつたものでした。正直言って、もう11年が経ちましたので、皆さんで良い人を推薦いただいて、やっていただきたいのが願いです。

**会館建設、電力事故後始末  
小関さん本当に良くやってくれました**

**井鳥：** 会館の建設など、小関さんは適任だったと思います。長くなつたけれども、これはしようがなかつたのではないでしょか。この10年間は本当に良くやつて貰いました。

**小堀：** 高圧電力事故の後始末などは、小関さんだから出来たことで、他の人なら無理だったと思います。

**小関：** あの事件は87軒、相当額の保証になったでしょう。直後に役員会を開いて隠密に対応を進め、被害のあった人た

ちは全て保証されました。業者との交渉には色々と思いつかあります。仮会館のところで重機が高圧線に近づき、末松さんのところで地下に潜り、これが家庭電線に入ったものです。各家庭にあるブレーカーが高電圧が入る前に落ちるか、入った後に落ちるかで被害が出たり、出なかったりしましたが、意外と近くの人はあまり被害がなかったようです。

**井鳥：** 家はレンジが駄目になりましたが、冷蔵庫は大丈夫でした。

**小関：** 一番弱かったのは給湯器のコンピューターで、殆んどやられています。また、ステレオがやられたところもありました。

**小堀：** 重機の運転手は大丈夫だったのでしょうか。

**小関：** 電気は重機の外側を流れるため、問題なかったそうです。鉄柵のところで見物していた人がいたそうですが、その瞬間に危険なところから離れていたため、問題がなかったそうですが、もし、犠牲者が出ていたら大変でした。

**佐藤：** この高圧線は糠平の電源開発の発電所から送電され、17万7000ボルトと聞いています。送電線の電気はクレーンから地面に入り、コンクリートや手す

りを通って末松さんの屋内配線を逆流して変圧器に流れ、この変圧器から配電されていた各住宅に異常電圧が流れたと伺っています。

**小堀：** 4、5年前に北電から人がきて、駐車場を貸してくれと言ってきましたが、以前、仮会館の管理で文句を言われた経過があったので駐車場は貸せないと言ったら、所長と次長が来て、是非貸してもらいたいと言うことになりましたが、私が値上げのため断ったと勘違いしたようで、当初の使用料より、大分高い金額を出してきましたので、貸すことになりました。

### 町内会だより、今ないのは寂しい

**小関：** 田中さんがやってくれた「町内会だより」は本当に良い記録として残っています。佐藤さんが全部を保存してくれていました。字も文も本当に温かい感じです。今回の30周年記念誌でも色々お願いすることにしています。

**司会：** 「町内会便り」はどのくらい続いたのでしょうか。

**佐藤：** 町内会広報紙「朝日ヶ丘町内会だより」が各会員に配付されたのは、何時の時点からかは明確ではありませんが、私が保存しているものとしては昭和54年以降を継続しています。その後、平

## 座談会

成2年度から「吉田川」として改名され今日に至っていますが、平成7年度以降は発行されていません。この当たりがとても寂しいですね。

小関： 町内会の各会員の住宅分布の地図を10年単位くらいで30年周年記念誌に載せたらどうでしょうか。この様な記録を残された佐藤さんには敬服します。連合町内会のなかで、朝日ヶ丘町内会は活動の内容では、良くやっていると思います。会館を持っている町内会も連合町内会の18町内会の内、4町内会だけです。町内会の総会にも役員の他は7、8人で行われると言う町内会もあるようです。

小堀： 皆さんがこの町内会に来た時に、土地を坪いくらで買ったのかをお話ししたら面白いのではないのでしょうか。

小関： やはり、昭和47年から48年にかけて、大幅に価格が上昇したようです。現在の朝日ヶ丘町内会の土地の相場は、中心で坪25万円くらいで、売りに出した場合はこの価格で、買いの場合には30万円ぐらいになるようですが、これはあくまでも需要と供給のバランスの問題かと思います。町内会30年周年記念誌は今日がスタートとなります。過去の写真とか記録を提供していただくため、後日、回覧を回し、30周年記念誌の作成に町内会全員が参加するよう

にしたいと考えています。

小堀： お願いがあるのですが、以前から市の企画で「花ランド」と称してプランターを町内会のメインストリートに10箇所ほど置いているのですが、花に水をやってくれるように、回覧に書いてもらえませんか。

### 今後、会館運営費捻出が検討課題

小関： 老人クラブの活動が町内会の活性化につながっていると考えています。そこで、一昨年から老人クラブの人たちに、会館をひと月に4回、無料で使って欲しいと進めてきましたが、最近、会館の維持費がきつくなつており、有料での利用を高める必要もあると考えております。以前は使用料が年間45万円程度あり、運営費は出ていたのですが、最近は35万円程度に下がっており、このままで行くと将来は町内会費の値上げをしなければならなくなります。今後、会館の運営についてご検討いただくことになると思います。

司会： 本日は歴代の町内会長さんにお集まりいただき、朝日ヶ丘町内会についてご歓談いただきましたが、このへんで座談会を終わりたいと思います。有り難うございました。

# 新北野物語

菅原安信（初代朝日ヶ丘町内会長）  
朝日ヶ丘町内会だより、第9～14号  
(昭和57年7～10月) より転載



「新北野物語」は8回連載で昭和57年度  
「朝日ヶ丘町内会だより」で紹介された

## 師走の闇に凍る光のみ

昭和39年12月29日、私たちはこの「北野」の地に拓殖した。

土地会社と約束した電灯も水も裏切られての暮らしが始まった。

部屋の蠟燭よりも明るい窓からの眺望は今も忘れることがない。不釣合いな暗黒の中の街燈が第1夜の灯りだった。小高い丘陵が連なるところは、りんごの木が黒く立ち並び、その先には地平線があるだけの野幌が開けていた。すでに暮れてしまった師走の闇を国道12号線のヘッドライトだけが、凍る光の線を引き、また消えていった。

## 苦難の地＝北野

住いを決めるとは意外に偶然性がつきまとることが多い。私の場合も例外ではなかった。

昭和36年、豊平町を合併した札幌市は次第に近代的消費都市の形をなし、人口も膨張して北と東にのびていった。

厚別川の流れるところ、私たちが住む北野はほとんどが火山灰地である。その昔、樽前山と恵庭岳の大噴火があって、火柱が天空を焦がし、大量の灰は折からの南西風に乗って、北野、平岡、清田一帯に運ばれ堆積し、起伏を作った。月寒から千歳に向かう丘陵がそれである。

これも長い間生活している間に古老から聞いた話で、とにかく清田地区の農家は地味が悪く苦労が多かったようだ。

農家を始める訳ではないので火山灰地であろうがなかろうがよいのだが、これが開拓農家だったらーと思うと先陣の勇気と労苦に敬服せざるを得ない。

## 丘へのあこがれが

とにかく当時、北野地区は札幌の東部開発が遅れていたため、地価が安く私の様な、金のないサラリーマンとしては買い易いことが第一の理由だったが、それに加え、何故か函館生まれの私は小高い丘に住みたい、坂のある街にあこがれをもつ潜在的なものがこの地

## ■ 新北野物語

を選ばせたものと思っている。しかし暮らしあはそんな甘いことだけでは住まわせてくれない。すぐその後にやってくる苦難も知らず昭和40年の正月を迎えた。

### 自信をもたせた給水タワー

昭和40年は何事もなく、平安な正月明けで始まった。当時、新興団地のシンボルだった給水塔タワーが高圧線の走る高台にそびえ、俺達もやっとこの安住の地に住めるのだという自信をもたせたものだ。

### 苦労を一瞬にして消す大自然の脅威 救いは女房の鼻歌

気象庁のデータではどうか分らないが、“北野”に住んだ私たちの感覚からすると、この年の雪の量は忘れられない体験数値で記録されている。

山荘風の環境、そんな風流な気持ちも手伝って過ごした1月も中旬になると一転して、湿気を含んだ「雪気団」が石狩湾に居座り、あつという間に平屋の菅原家など簡単に埋めつくし、吹雪は三日間も荒れ狂った。細々と暮らし始めた私たちには、自然の横暴な直撃だった。電気、水、食料、それに通信まで、あっけなくもぎ取った。3週間も土地会社、北電、井戸堀りなどを説得した苦労が一瞬にして消えてしまったのだ。

普通、こんな時悲嘆にくれるのは女房のはずだが、いたって平氣。鼻歌まじりでのんびり引越し整理をしているのには本当に助かつ

た。実は納得させて入植したのだが、とにかく私には救われる気持ちだった。

### 暮らしの支え＝スキー 吹き溜りこいでバス停へ

冬の嵐は信じられないほど気まぐれな回復の仕方をする。あんなにも唸り続けた空は朝には一変して青空が広がり、怒る顔も落胆の吐く息も似つかわしくなかった。

外に出ると新雪はベランダに届くところまであった。吹き溜りは2メートルもあって、我が家はさながら月世界に置き去りになった“アポロ宇宙船”だった。引越しの時持って来たスキーが早速、暮らしを支えてくれる。

放送局を休む訳にはゆかない。現在の高橋さん（団地下左の家）の軒下までスキーで降りて立て掛け、36号線バス停「北野」まで歩き出す。胸までの吹き溜りは時に私の進行を阻み、幾十カ所もの小山を作っていた。気負いは初めだけ。だんだん疲れがひどくなって、汗は首伝って流れだす。毛糸で編んだ脚絆に雪がたまる。足が重く腰をおろして座り込む。

こんな北野暮らしがスタートしてまだ3週間しか経っていないのだ。「お前は妻と2才の娘と、この地で本当に住むというのか？」。こんなことを反すうしながらまた踏み出す。帰りには食料を満たしてゆかねばならない空のリュックサックだけが、風をはらんでブリザードの中で踊っていた。

## デントコーン道に痴漢

昭和40年当時、どうやら街の体裁がついていたのが東北通りバス停（当時終点）までだった。それも途中の月寒学院などのリンゴ園や畠地、山林があったので、まだまだ過疎地続きだった。

都心との交通は3ルートあった。一つは36号線中央バス“北野”利用（徒歩約20分）。一つは国鉄“大谷地”下車（約15分）。もう一つが終点“東北通り”から歩く（約15分）。

東北通りバス停（現在の東北通り南?）は高台になっていて、夏も近づく頃になると一直線に走る道路の両脇が黒沢牧場の畠になっていて、一面デントコーンが背丈よりも高くのびた。農道と呼ぶにふさわしく、車は交錯すら出来ない細い道、たまに通る車の姿は見えないが、カラカラの火山灰のホコリを十メートルも舞い上げて走る。まるでアメリカ西部劇のシーンそのものだった。

その道路にも珍談奇談がまつわりつく。毎年夏になると、街燈一つないトウモロコシ畠に痴漢が出没するというウワサが広まった。若い女性をねらうというので、娘など札幌へ務めに出している農家では親達がその終点まで迎えに行くことになった。中年以降の女性たちは「そんなことはない、会ったこともない」と頑張る。「痴漢というのは目が肥えているんだ」と笑い話となったこともあった。とにかく都市で起るいいことも悪いことも、この地区にすらのびてくる気配だった。

## 町内会=農事実行組合

北野町内会は農家中心の「農事実行組合」なる組織と重って在った。私はひとまづ入れてもらうことにした。どう見ても1軒では暮らしが成り立たない。ほとんどが農家の古老が役員で運営されていた。エーリアは36号線—東月寒—平岡—清田に接する地域全域だった。

この農民たちは農地改革で恩恵を受けた小作農民の末裔がほとんどで、街に住んでいたものにとって専業農家社会へ入るということはいろいろ困難が伴うことが多いものだ。考えてみると、彼らたちはこれまで農民としての連帯と、自らの農業経営の安定を願い、それを第一いや唯一の目的にして暮らして来た人たちで、私たちは“ヨソモノ”だった。最近の流行語でいう“文化摩擦”が当然起こった。

住みついで、翌年春の総会が開かれた。事業は毎年同じものの繰り返し、彼らの先陣の入植当時から続いているのでは？というものがほとんどだった。

大層なのは役員人事であった。農業ボスが町内会でも実権を握り、それなりの派閥を抱え、反主流をバランスよく押さえていた。日本のミニ政界と考えればよい。

## ヨソモノ、街燈設置を提案

新入りの加入者は一つの提案をした。それはきわめて素朴なもので小学校の学級会に出てくる内容である。先程の“夜道を明るくしよう”だった。私はそれまで暮らしてみて、どうも納得ゆかない。いくら考えても解らな

## ■ 新北野物語

いのが街燈であった。私には些いなことではなかった。灯りのある所に居たものにそれがないということは大げさにいえば生活のベースを搖るがした。こんな闇の中に何故平氣でいられるのだろう?—當時、広大な北野地区の街燈はわずか15燈ぐらいだった。全北野である。今ではどこに行っても昼間の様なので想像すらできないだろうが、十字路、カーブ以外全くなかつた。例えば東北通りから厚別北通りまで4燈だった。暗い中を女性など小走りに灯りから灯りへ走つたものだ。

### どんなに暗くともなれた土地

その話しと対称的に、わが朝日ヶ丘団地の丘陵には水銀燈が10基ほど立ち並び、闇の中に不夜城の様に青い光を放ち、国鉄千歳線の汽車からも見えたものだつた。これは土地会社が商品価値を上げるために目を引く飾りだった。

さて脱線したが、街燈に話しをもどそう。今はなき古老たちは農民たちを見すえていつた。「われわれはどんなに暗くともなれた土地だ。目を閉じても歩ける道だ。月夜は明かるいくらいだ。俺の家の前に設置してくれるなら話しへ別だけど‥」。どっとウケた。田舎特有のジョークは大ウケして私の前に大きな壁として立ちはだかった。これが日本の農村文化だった。30年前に実存していた。

こうしている間に、北野にもどんどん都市化の波が迫つていた。

### 電話線はつながつたが‥

電々公社に日参して、一岡ベニア工場(現在の山田ストアー裏にあった)から電話がのびたのが昭和40年の秋だったと思う。

一戸のために10本以上の電柱を立てるのだから公社としても割に合わない。なだめ、すかした奥の手がとうとう効を奏した。我家にもやつとコミュニケーションのワイヤーが引かれたときはホットした。医者にも、外部とも通信ができるという安堵感が走つた。配線の日は、西部劇で鉄道の開通を待つ住民の様に外に立つて見ていたものだ。文明に渴朼していた明治初期の人に変わつた心境だった。

或る日、通信は突然とだえた。やつつながつたコミュニケーションが断たれると、これほど不安なものはない。半日ガマンしていたが、点検にでかけた。一步外に出ると、現在の清田通りのバス停まで見通しがきくのである。電話線が切断されてワイヤーがない電柱だけが立つていていた。盗難である。驚いた。こんなのはアメリカ開拓にあつた話じゃないか。それが現実の話として起つてゐるのである。当時、銅線が高く売れたので、夜中に荒稼ぎしたものである。

### 愛のみちしるべ

昭和40年から4年ほど大雪の年が続いた。吹きっさらしの高台ということもあって、背丈ほど積もつた。

私たちは都心に出るため近道をさがす。いまの中央バス月寒ターミナルからの道が北野

体育館野球場までついていた。それからこっち側の団地までが山林と田んぼである。開拓民2番手に入植した工藤三郎さん、佐々木武郎さんと積雪の朝は泣いたものだ。

自然に生きる人間は素晴らしい。それに立ち向かう姿、しかし、そんな中に楽しささえ求めることができる。そのことを教えてくれたのは佐々木さんであった。

私たちは、はじめ300mの除雪を始めたが、それ以上は体力の限界、簡単に続かないことが分かった。ある朝、雪がやんで出勤の道に出ると、もはやカンジキで雪は踏み固められて通る道になっていた。その日も、朝早い娘さんへの佐々木さんの愛情がまぶしかった。道がこんなにも親子のぬくもりを伝えてくれるものなのだ。ふみ固められた道に沿って“よし”が立ち並んでいた。私は一本一本を確認しながら歩いた。

冬の天気は突然変化し、吹雪になった。その日の“よし”は大きく揺れて一寸先も見えない歩行者を導いた。ある時“よし”的に着色のビニールがつながっていた。それは鮮明であり、1メートル間に、適確に私たちを助けてくれた。

私たちはこの文明社会の中におぼれ、当然のように地下鉄を利用している中で、こうした生活の知恵が失われていないか。もはや供給されるだけの文明におぼれ成長をしている子供たち、そうした知恵が育って行く素地があるか、それが怖い。

## 盗難？未遂事件

町内の犯罪もいろいろあった。電話線、電線盗難事件から裏の野球場に通じる坂に出た変態少年事件までいろいろ。時代の曲がり角に出たので記しておきたい。

小学校の女児が通ると男性のシンボルを露出して見せる変質者の登場だった。出るのは学校の帰りが多いという。中学か高校生らしい。それも、あの一角に住む男らしく、坂の所、山林にかくれていて、女児がくると出没するというのだ。子供たちはおびえて、なるべく集団下校させる様にした。その後大人も現れるという話も加わり、厳重警戒をすることになった。夕方日暮れ時、真暗な坂道を交代でパトロール、呼子を持って安全警戒をする騒ぎとなった。その後、そこは“痴漢銀座”の地名がついた。

そんな類のものはほとんど夏に起る。犯罪防止のために情報の交換している間に、こんな驚いたというか、芝居のようなケースがあった。野球場の周りの東月寒町内会にあった実話である。

夏の夜、むし暑いので、居間の窓から玄関の戸まで開けて寝ていた奥様、隣に居ないはず(出張中?)の亭主の床から手がのびて来る。夢うつつだったが、はっと気がついて見た瞬間、夫ではない。夫婦というものはそれなりに普段よく観察しているもので、「ハッ！」と気がついて飛びのき、「アレー」といったかどうかは分からないが、賊は一目散に逃げた。

とにかくウソのような昭和40年代北野かいわいにあった、きわめて風流な“盗難？未遂

## 新北野物語

事件”ではあった。

### 町内会活動

初代会長に就任して、朝日が丘町内会が当面かかえていた懸案は水、道路、除雪対策だった。

一握りの12、13戸で発足したのだから何かあつたらその都度考える和気あいあいの町内会だった。副会長工藤三郎氏(京都在住)、会計佐々木武郎氏だったと記憶している。

まず交渉相手は内外緑地株式会社だった。町内会の利益の寄りどころであり、私たちにとって、土地取得の商契約の相手だった。不動産売買の場合、条件と実際が大きく異なる場合が多い。当時、雨後のタケノコのようにあった土地会社の中で、その不履行さ加減は内外緑地も例外ではなかった。5、6回、集団交渉で押しかけた。

南1条西7丁目に内外緑地の会社があった。小ぎれいなソファーが並んでボックスになっていた。ちょうど地方の町のバーかクラブの感じで、応接は客を下にも置かないもの腰だった。

それが昼にさしかかると昼食がスッポリ出て来るのには驚く。さすが苦労人、釧路で無一文から築き上げ、人間の心理にたくみにくい込むマナーは「オヤジやる！」と松坂商法に舌を巻いたものだ。

交渉問題は例の不夜城の「水銀燈電気代と修理」、「簡易水道設備の時限」、「裏道買上げと整備」、「除雪打ち切りに対し継続要請」などであった。

再三の面会申入れに対して、不在を理由に居留守をつかう会社に対し、今度はこちらも戦術的に強引手段に出た。社長室に直行した。居ならぶ町内会の面々は具体的に実状を訴え、契約違反であり、サギ行為であり、商道徳上許せない、約束した部分を実行するか否か、テープレコーダーを使って録音し、こちらにも考えがある一と迫った。ほとんどの人たちが集団で参加して意見を述べた。「人を煙に巻く」というが、松坂社長のその話術は独特のものがあった。

私はそのパターンは心得ていたので主題から逃がさなかった。彼にとっても苦しかったろう。主婦たちのネバリも大きく貢献した。

思い出す懸案、私にとって忘れられないのが裏通り、今の自然公園（吉田川公園）の中を抜ける道路設置交渉であった。

あのコースが交通機関への最短距離であるという案を示し、会社に買取りを要請した。地主が手放すならということになって、中間をさえぎる田んぼの持ち主に何人かの役員が交代で交渉を行った。先方の名は伏せておくが、とにかく相手にならなかつた。

「ノーコメント！」である。シャットアウトといった方が良かった。閉鎖的で、それはこれまで痛みつけられてきた農民の猜疑心の脅えだったのだろうか。申し入れは要点を絞った。道路用地の譲渡とアスファルト舗装である。というのもほとんどの人が利用するあの道は、雪どけと雨期には長靴でも歩けないドロンコ道になる。少しの勾配が歩行を不能にする。下りになると足をすくわれるはめになり、何とか改善をと、内外緑地に買取りを承認させ

る交渉だった。団地住人が増えたこともあって、地主農民も道路用地の使用だけは了承し、「通ることはいいが加工は一切まかりならぬ。売る気はない」ととにかく泣かされたものだ。それだけではない。現吉田川公園の坂道の中腹部から上までは別の地主、豊平農協役員の土地が入り組んでいて権利関係が複雑だった。福住の大地主の農民の家も訪ねたがこれも不成功。一年一年地価が高騰する時期だったので放したがらなかったのだろう。

時の流れは問題を解決してくれるものだ。遅れていた吉田川公園の問題の道路もにわかに動きだし市の買い上げで落着し、工事も順調にすすんだ。朝日が丘団地と月寒ターミナルは、泥靴の心配もなくなった。

私は吉田川公園のその道路工事現場を見て当時を思いだしていた。雨が降ると膿んだ様になる道路勾配の土は深く掘られていた。それは、血の出る様な交渉で入れたジャリが、2年間隔くらいにそれぞれ層になって貝塚の様にはっきり仕切られてあった。掘り込みは一番深い所まですすみ、ブルトーザが曲りくねった大木のあたりを整地し、アスファルトを打ち込んでいた。

すでにこの地に住んで18年が経過した。年々人は変わり、役員としてまた道普請に汗を流した方々の苦労の跡が、砂利の年輪として埋まっていた。年毎に石の質、大きさが異なっているのでわかった。感無量だった。だが、当時の歴史の基礎は取り除かれ、それは関係なく、新しい時代にむけての便利な道が連る日も近い。あの片隅に立った大きな桜の木は変わらず公園を飾ってくれるだろう。

そして当時のことも覚えていてくれるに違いない。この地に住む人に大きな幸福のあらんことを……。

【註】当時の町内会だよりの原稿をカナダの菅原安信さんに送り、加筆・訂正をいただきました。

ブリザードによる幾十カ所もの吹き溜まりによる小山スキーが暮らしを支える——雪にうもれる菅原家——

